

授与する学位の名称	国際経営修士(専門職) [Master of International Business Administration]	
人材養成目的	「高度専門職業人」として、国際社会や文化の多様性を理解し、変化するビジネス環境に適合した適切な行動を導くことができる知識・技能・資質をもった経営専門職、特に、経営に関するコア力量を持つビジネスマネジャー、国際対応力量に秀でたカントリーマネジャー、応用情報技能に秀でたプロジェクトマネジャーの3タイプのグローバルリーダーを養成する。	
養成する人材像	多様性の高い学習環境において、文化的感受性と創発的なコミュニケーションができる英語力を持ち、主体的な問題意識や自律的な行動様式を備え、将来、営利又は非営利グローバル組織の国際本部および現地事業所、あるいは地域横断的なプロジェクトにおいて、中枢マネジメント人材として活躍するキャリアを目指す社会人有職者。	
修了後の進路	本専攻は、有職社会人を対象とした大学院であるため、基本的には従前の勤務先に継続して就業する。但し、毎年、一定数の修了生は、学修内容を通して、それまでの職業経験を活かしつつ、キャリアチェンジをしている。また、チェンジパターンとして、異業種、日本企業から外資系企業、国内企業から海外企業への地域間移動、同級生との起業、あるいは民間企業から国連など国際公務員への転身等、多様性がある。さらに、専門職大学院の学習内容をさらに発展させるため、大学院博士課程に進学する修了生もいる。	
ディプロマポリシー		
筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する専門職学位課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、国際経営修士(専門職)の学位を授与する。		
知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 多様性受容力:異なる視点を検討し、異なる意見を傾聴することにより、様々な可能性を考慮に入れる力	① 異なる文化、異なる業界・職務など他領域に属する者の考えや視点を理解することができるか ② 様々な異なる考え方を受け入れ、課題解決の可能性を広げることができるか	Cross Cultural Management I 等
2. 達成力:不確実性が高く、解決が困難な状況において、課題達成の手段を探索する力	① 不確実性が高い状況においても、適切に課題を認識し、解決策を見出せるか ② 困難な状況においても、主体的・能動的に行動し、目標を達成することができるか	Business Project、学会発表等
3. 先見力:解決すべき課題に影響を与える現在および、将来の諸要因を見通す力	① 将来に影響を与える様々な要因を的確に把握、理解、整理することができるか ② 長期的な視野に立ち、社会への価値創造のために新たなアイデアを着想する力があるか	Business Model Innovation 等
4. 情報収集力:意思決定に必要な質的に高い情報を効率的に収集する力	① 正しい意思決定に必要な情報とは何かを特定することができるか ② 多様な手段を活用し、必要な情報を効果効率的に収集することができるか	Data Analysis II 等
5. 創造力:既存の概念を組み合わせたり、新たな発想にもとづいて課題に取り組む力	① 新たな知識、価値の創造の重要性を理解し、そのための方法論に関する理解があるか ② 社会に対して、新な知の創造を通じた貢献を行うことが期待できるか	Technology Management 等、学会発表、賞の受賞等
6. 分析思考力:課題解決に適合的な情報と手法を選択して分析する力	① 論理的思考法を理解し、活用することができるか ② 論理的思考力を社会における実課題に適用し、解決していける能力があるか	Finance I、Marketing I 等、MBA スクール間のコンペティション参加等
7. 戦略立案力:複数の評価尺度の検討から、高い成果が期待される施策を作成する力	① 多面的な視座・視点を持ち、社会・企業等が抱える課題を適切に把握することができるか ② 社会・企業等のあるべき姿を設定し、そこに至るための道筋を描くことができるか	Business Strategy I 等、MBA スクール間のコンペティション参加等
8. 組織マネジメント力:与えられた経営資源の配分やメンバーの意識に配慮し、統括部門の目標を達成する力	① 社会に存在する様々な組織形態ならびにその本質を理解する能力があるか ② 組織行動・管理、リーダーシップについて理解し、組織を適切に運営していく能力があるか	Organizational Management I 等、海外での活動等

9. コミュニケーション力:意思疎通における曖昧な状況を排除するとともに、関係者から支持や理解を得る力	① 様々な業務を円滑に進めるために必要となる適切なコミュニケーションを行えるか ② 相互理解を促進し、目標達成に向けた主体的・能動的なコミュニケーションができるか	Cross Cultural Management II 等、留学生との交流等
10. 危機管理能力:客観的にリスク発生の確度およびその影響を把握し、発生時に適切な対処ができる力	① 社会・企業等に潜む潜在的リスク要因を把握する力を有しているか ② 危機発生時に、適切な状況把握、指示、行動を行うことができるか	Operations Management I 等
※国際経営プロフェッショナル専攻は専門職大学院であり、5 年毎に分野別認証評価を受審していることから、分野別認証評価で示してきた内容を踏まえてこれまでのコンピテンス(ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力)を維持している。		
カリキュラム・ポリシー		
本専攻の教育目標を実現し、国際競争力のある専門職大学院にふさわしい教育プログラムを提供するため、以下のような 3 点の具体的な教育方針を設定する。 第1の教育方針は、新たな経営環境に関連して設置する 5 教育領域(「事業戦略領域」、「組織経営領域」、「国際対応領域」、「応用情報領域」「共通領域」)間の教育が、互いに関連し、補完することを通じて、変化の激しい国際経営において迅速かつ最適な意思決定ができる技能が身につけていることである。 第2の教育方針は、5 教育領域が層の厚い科目を開講することにより、国際経営プロフェッショナルを目指す修了生の多様なキャリアプランのニーズへの対応を可能にし、自律的にキャリアプランを立て、その実現に向けて行動する精神をもっていることである。 第3の教育方針は、国内外における実習科目を通して、国際経営プロフェッショナルとしての実践的な職務遂行能力を養成し、国際的な経営環境における職務遂行能力が身につけているとともに、その能力を本社あるいは、現地法人において効果的に発揮できることである。		
教育課程の編成方針	本専攻において、国際競争力のある専門職大学院にふさわしい教育プログラムを提供するため、言語、講義、実習に関して 4 つの特色ある教育課程を編成する。 ・必修科目、選択科目、演習科目、及びビジネスプロジェクトを設定し、ディプロマ・ポリシーで示した 10 のコンピテンスを身につける。 ・国際ビジネスの各領域で活躍する実務家、専門的研究者による、理論と実践が統合された講義を提供することにより、学生の多様性受容力、先見力やコミュニケーション力を身につける。 ・最終学期に行われるビジネスプロジェクトでは、①企業内プロジェクト、②日本インターンシップ、③海外インターンシップ、④リサーチレポート、⑤ビジネスプラン開発の中から個人のニーズに合ったプログラムの選択が可能であり、講義科目で習得した知識や技能を実践に反映するための統合プロジェクトが行われる。ビジネスプロジェクトにより、学生の創造力、戦略立案力、達成力、情報収集力や分析思考力などを身につける。 ・学生の約 4 分の 1 は外国人学生であり、また海外の大学で学位を取得した日本人学生も在籍することから、多様性と国際性の高い学習環境の中で、創発的な教育メソッド(討論、グループワーク、シミュレーション)に基づく学習が行われる。また、社会人学生でも参加しやすい1週間程度の短期海外研修プログラムも開講している。これらの教育により、学生の組織マネジメント力、コミュニケーション力や危機管理能力などを身につける。	
学修の方法・プロセス	・学生が必修科目、選択科目及び演習科目を、複数の指導教員のアドバイスのもと、履修する。 ・学生が講義・演習で学習した理論をより実践的に応用し、現場で応用可能な知識や技能に発展するため、演習の段階より、「Preliminary Report/Presentation」、「Interim Report/Presentation」のマイルストーンを用意することで計画的な学習をサポートするとともに、実習として修了学期の 1 学期間のビジネスプロジェクトを、複数の指導教員のアドバイスのもと、実施する。	
学修成果の評価	・2 年間の標準的な履修方法として、講義科目 32 単位(必修科目 8 単位、選択科目 24 単位)、演習科目 5 単位を履修し、評価する。 ・「Preliminary Report/Presentation」および「Interim Report/Presentation」に合格、講義科目 32 単位、演習科目 5 単位を修得し、平均GPAが 3.0 以上である者は、最終修了要件となっている「Business Project(8 単位)」に進むことができる。 ・ビジネスプロジェクトにおいては、最終レポートの提出後、最終プレゼンテーションを実施し、質疑応答を経た後、専攻のすべての専任教員が参加する判定会議においてその結果を評価する。 ・判定会議において最終レポート、最終プレゼンテーションに合格し、最終の平均GPAが 3.0 以上であることが学位授与の要件となる。	

アドミッション・ポリシー	
求める人材	①多様性の高い学習環境において、文化的感受性と創発的なコミュニケーションができる英語力を持ち、②主体的な問題意識や自律的な行動様式を備え、③将来、営利又は非営利グローバル組織の国際本部及び現地事業所、あるいは地域横断的なプロジェクトにおいて、中枢マネジメント人材として活躍するキャリアを目指す社会人有職者（もしくは職務経験者）を求める。
入学者選抜方針	出願書類の審査と英語能力の審査及び口述試験に基づいて受験者を総合的に評価する。 ・第1段階選抜：出願書類の審査と英語能力の審査 出願書類には所定様式の願書、ビジネスプロジェクトの実習計画等を記したエッセイ、卒業大学における成績証明書、推薦状等が含まれる。 ・第2段階選抜：口述試験（第1段階選抜の合格者のみ） 口述試験では、受験者の職業経験、出願動機、分析・コミュニケーション技能、将来へのビジョン等を評価する。